

毎月20日発行 定価1部20円

第778号

追悼

## 生理学教室 岡本歌子先生のこと

NPO食と健康プロジェクト理事長

高田 明和(40回)



2016年6月4日号  
のLancetに岡本歌子先生(20相)  
の追悼文が載った。日本の女性で訃報  
がLancetに載るようなことはめった  
ないで、ここで岡本歌子先生のこ  
とひその業績、慶應の医学部生理学教室との関係  
について少し説明したいと思う。

敗戦後に三菱グループはやめじ  
がなくなり、医学の方面に活路を見出  
そうとしていた。発足直後三菱化成は生理の林  
教授に案と求めた。林先生は三菱化成の顧問に  
なり、当時生理の講師をしておられた岡本彰祐先  
生と塙田裕三先生が三菱で研究を始めた。その一  
つがファブリンを溶かす酵素をプラスミンとい  
うことを塙田先生が発見した。この研究はアミノ  
酸(イフシロンR)の発見につながった。この研究  
はプラスミン・リサーチプロジェクトと呼ばれ、  
医学部の臨床の各科の教授も参加した。ところが  
当時スイスの特許をとるにはスイスの国籍のある  
人々ないと不可能ということが世界的に売り出す  
ことはできなかつた。

岡本歌子先生は東京女子医科大学の出身で慶應  
の生理の林先生の門下で研究をはじめ、すぐに岡  
本彰祐先生と結婚をされ、この一連の研究に参  
加され、発展させることに大きな役割を担つた。  
私ども妻(由美子)は昭和36年に医学部を卒業し  
て、慶應の林先生の大学院学生になった。妻は歌子  
先生の元で線溶の研究を始めたのである。岡本先  
生夫妻は三菱化成の合成陣と組んでついに強力な  
止血作用のあるトラネキサム酸を見つけた。  
その後歌子先生は神戸大学の教授をされ、  
た彰祐先生と一緒に今度はトロンビンを阻害し血  
流を回復させる作用のあるアルガタロバンを合成  
したのである。これもアルギニンの構造をもつた  
ものがトロンビン作用を阻害するといふところか  
ら出発したのであった。これら偉大なる業績  
はLancetの追悼文にふさわしく、慶應の生理学教  
室にとっても誇りになることだと思われる。

Lancetに掲載された岡本先生の写真

その作用がある